



しずく 通信

もくじ

01 夏の号のはじめに（はるまき）

02 お知らせ 気分から作品を探す一覧（凧）

03 感情浴会の記録 第48回～第50回

04 寄稿 夏の夜の朗読（こはぜ）

05 寄稿 冷たい麺の出てくる漫画（ぬか）

06 夏の選書

07 次の会

夏の号のはじめに

(はるまき)

春の号はお休みしちゃって、葉に代わってもらいました。おかげで、子どもたちの新しい生活も、なんとか軌道に乗りました。四月の終わりには、やっぱり、どっちもなじんでいました。

この号には、うれしいことがふたつあります。ひとつは、六月の会が第50回だったこと。もうひとつは、風と葉が、これまでの記録を「気分から探せる」ように並べ直しはじめたことです。まずは、そのお知らせから。

お知らせ 気分から作品を探す一覧

(風)

六月から、これまで会で取り上げた作品と、メンバーがそれぞれ書いてきた作品の記録を、「どんな気持ちになりたいか」で並べ直す一覧を作りはじめました。

きっかけは、自分が毎月の会の候補を三つ出すときに、去年の今ごろ何を観たっけ、とか、泣きたい回は前にいつやったっけ、とかを、毎回ひっくり返して探していたことなんです。泣きたい、笑いたい、ときめきたい、静まりたい。会のテーマの気持ちごとに作品を並べておけば、探すのも楽だし、誰かが泣きたい夜に、そこから一本選べるかもしれない、と思って。

いまは会で使ってきた気持ちの言葉ごとに、作品の名前と、記録を書いた人を並べているところです。記録の書き方をいつも見直してくれている葉が、言葉の並

べ方を一緒に考えてくれています。全部そろそろまでには、たぶん、何か月かかかります。

感情浴会の記録

第48回（四月） 背中を押されたい 『成瀬は天下を取りにいく』 宮島未奈

進行は灯、記録はぬか。灯がこの本を選んだのは、背中を押す人の話ではなく、押される必要のない人の話を讀みたかったから。主人公が高校の入学式に、髪をすっかり剃って現れる場面で、記録のぬかは心をつかまれたそうです。灯は最後に、今年は自分も何かひとつ毎日続けることを決めてみる、と話していました。何を続けるのかは、まだ秘密です。

第49回（五月） 静まりたい 『PERFECT DAYS』 ヴィム・ヴェンダース監督

進行はロク、記録はこはぜ。それぞれ観てから集まりました。東京で公衆トイレの清掃をしている男の、毎日の暮らしを追う映画です。ロクは、画面の端に毎朝同じように映るものを数えていたそうです。灯は、観たあとの一週間、朝いちばんに窓を開けるようになった、と。

第50回（六月） ぞくっとしたい 『INSIDE』 Playdead

進行はヤギ、記録はタカノツメ。第50回です。ヤギが自分の画面を映して遊び、みんなはそれを見る形。台詞も文字も出てこないゲームで、ほとんど誰も喋らない夜でした。途中で画面の共有が一度落ちて、真っ黒になった画面を、何人かは

ゲームの演出だと思って黙って待っていました。水の中の場面で、ヤギは本当にコントローラーを置いていました。

五十回ぶんの会のうち、はるまきが進行したのは何回だったか数えてみたら、六回でした。十回の灯には、とてもかないません。

寄稿 夏の夜の朗読

(こはぜ)

一行目の声が、雨の音にまぎれるくらい小さかったのです。ぼくは思わず、音量を上げました。

夏の夜は、古い物語の朗読を聴きます。雨戸を閉めて、扇風機を弱にして、柱時計の音と、朗読の声だけにする。

上田秋成の『雨月物語』には、いくつもの話が入っています。そのうちのひとつは、戦乱の世に家を出た男が、何年もたってから故郷に戻ってくる話です。荒れ果てた家に、妻が待っている。その夜の再会の場面を、朗読は、驚くほど静かな声で読みます。静かであるほど、その先に何があるのかが、耳の奥で気になってくるのです。

芥川龍之介の『蜘蛛の糸』は、もっと短い話です。極楽の池のほとりから、地獄の底へ、一本の細い糸がおりていく。読む声が、糸をのぼっていく男の息づかいに合わせて、少しずつ速くなる。最後に、声が変わる一瞬があります。

夏の夜に、怖い話を聴くのは、怖い思いをしたいからというより、あとで灯りをつけたときの、あの安心を味わいたいからなのかもしれません。

寄稿 冷たい麺の出てくる漫画

(ぬか)

流水にさらした素麺が、指先に当たるときの冷たさ。あれが欲しくて、この夏はもう三度、鍋に湯を沸かしています。

二年前の八月、映画の回の記録に、わたくしは、観終えて冷やし中華が食べたくなった、と書きました。あれ以来、夏になると、冷たい麺の出てくる作品が気になって仕方がありません。

漫画でいちばんに思い浮かぶのは、『ラーメン大好き小泉さん』です。ラーメンのことしか頭にない女子高生が、季節ごとにいろいろな店を食べ歩く漫画で、夏になると、やはり冷たい一杯が出てまいります。器のふちに汗をかいた、あの冷たさの描き方。ひとくち目をすする音が、絵から聞こえてくるようです。

冷たい麺は、ゆでる時間が短いぶん、冷やす時間を待たなければなりません。流水にさらして、氷を入れて、指先が冷たくなるまで待つ。漫画の中の人たちも、みんなその数分をちゃんと待っている。そこが好きなのでありました。

この夏は、会の前の晩に素麺をゆでようと思っております。汁は、ぬか漬けのきゅうりを刻んだものを浮かべて。白いごはんではなく、白い麺が欲しくなる季節です。

夏の選書

『ルックバック』押山清高監督（劇場アニメ）

選んだ人：凧。去年の秋の会で読んだ漫画が、先月、映画になりました。あの雨

の帰り道が、ちゃんと動いていて、自分は何回観ても、同じところで声が出なくなると思います。

『最愛』（テレビドラマ）

選んだ人：タカノツメ。十五年前の事件と、いまの事件が、少しずつ重なっている。脚本が、最後まで手の内を見せない。

『正対な君と僕』阿賀沢紅茶（漫画）

選んだ人：草餅。にぎやかな女の子と、静かな男の子。見開きで、二人の顔がちゃんと向き合うページがあって、うちはそこで一回止まる。

『しろくまちゃんのほっとけーき』わかやまけん（絵本）

選んだ人：めじろ。ほっとけーきが焼けていく途中の絵が、一ページに並んでいる絵本です。読み聞かせのとき、下の子が、その絵を一枚ずつ指でたたきます。

次の会

- 第51回（七月） テーマ「すっきりしたい」。冬に放送されたテレビドラマ『不適切にもほどがある！』。進行はタカノツメ、記録は風。
- 第52回（八月） テーマ「懐かしみたい」。劇場アニメの回です。進行はめじろ、記録は灯。

しずく通信 第17号 2024年7月 編集：はるまき

しずく通信 第17号

2024年7月 発行

編集 はるまき

発行 一滴舎

この冊子は会員向けに発行したものです。